

大型のコンニャク アモルフォ ファルス・デカスーシルヴァエ (*Amorphophallus decus-silvae*) の開 花報告

上野明楽

導入経緯と開花記録

本園が保有するデカスーシルヴァエ種 (*Amorphophallus decus-silvae*) は、世界一背の高い花として知られるギガス種 (*Amorphophallus gigas*) として 2017 年に国内の業者より導入したが、初開花の際に別種であることが分かり、咲いた花をサトイモ科の研究者である東京大学大学院理学系研究科名誉教授 邑田仁先生に同定していただき、本種であることが判明した経緯がある。

本園での開花は 2 年ぶり 3 回目であり、国内ではおそらく 4 例目の開花なのでここに記録をする。

発蕾から開花まで

令和 6 年 9 月 4 日に発蕾を確認し、そこから記録を開始した。(写真 1)。

なお計測についてはコンニャクの鉢の地表面から測定しており鉢の高さは含めていない。

9 月 4 日

伸びてくる芽を観察したところ、その基部に膨らみを発見し、花芽であると思われたので記録を開始した。

9 月 12 日

芽の先端の高さが約 110 cm になった。(写真 2)。

9 月 18 日

芽の先端の高さが約 149 cm となった。一日平均で 6 cm ずつ高くなっていった。(写真 3)

9 月 21 日

観察対象としている芽の横からもう一つの花芽らしきものが出ていることに気づき、合わせて記録することにした。(写真 4)。

9 月 24 日

かすかに肉穂花序の先端が見えているため、花芽とした。花序の高さが約 159 cm になった。(写真 5)。

9 月 26 日

肉穂花序が伸び、高さが約 161 cm まで伸びた。花序の伸長はこれで停止した。(写真 6)。

9 月 27 日

大温室に入った際に腐敗臭がしたため確認しに行くとい炎苞が展開していた。開花時の花芽先端の高さは約 161 cm であった。(写真 7)。

また、9 月 21 日に指摘のある花芽らしき芽は開花することなく腐ってしまった。

所感

本種は有名なショクダイオオコンニャクをさらに上回る高さまで成長する可能性のある貴重な種である。本稿執筆時点で知られている限り、国内で本種と同定されている個体は宇部市ときわミュージアムと本園の 2 株だけであり、本園では 1 株のみ保有しているため、枯死させないよう管理する必要がある。

また、今回の開花は初開花、前回開花に続けて花の高さが小さくなっている。初開花時に約 288 cm の高さがあったが、3 回目の開花で 161 cm まで下がっている。塊茎が弱っている可能性もあるため栽培の見直しを図るとともに枯死させない管理が必要となる。

参考文献

堀川大輔・高井敦雄・荒木太蔵 2022. コンニャク的一种アモルフォファルス・デカスーシルバエの国内初開花について. 広島市植物公園栽培記録 43. 42-44



写真1 9月4日の状態

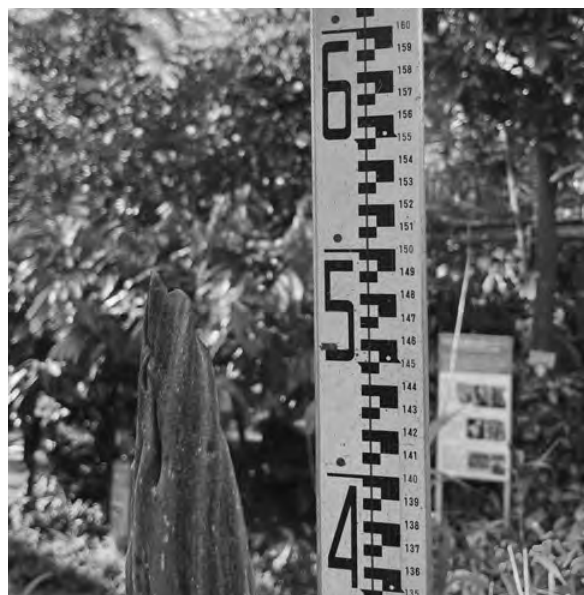


写真3 約 149 cm



写真2 9月12日 約 110 cm



写真4 9月21日 花芽らしきもの



写真5 9月24日 約159 cm



写真7 9月27日 開花

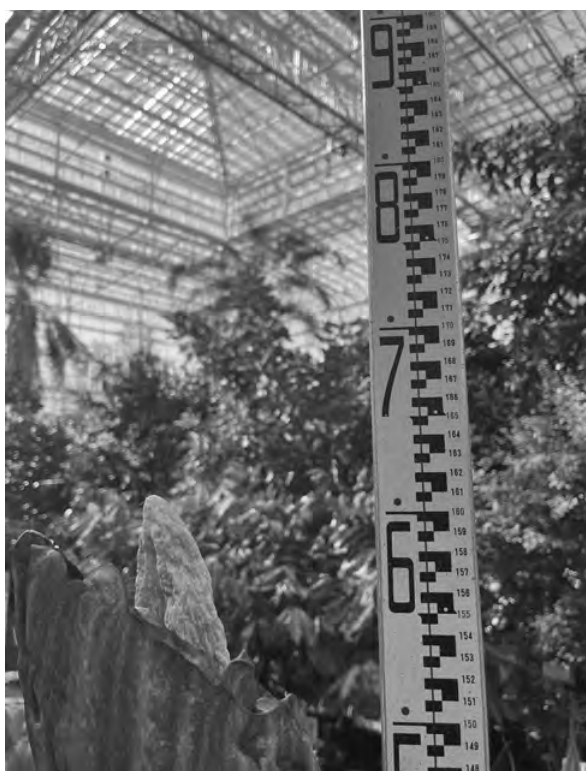


写真6 9月26日 約161 cm